

おだわら森林ビジョン作成に向けた基礎調査について



本報告の概要



1、森林環境・資源調査

航空レーザなど最新のセンシング技術を活用し、森林の状態を調査したほか、動植物がどのような環境で生育しているのか、既存の調査と併せて調べました。
(森林資源調査については航空レーザ計測終了が本年3月末だったため、令和2年度も併せて実施しています)

2、森林意識調査(小田原市民を対象としたアンケート)

市内の各自治会を対象として、森林に対するイメージや、森林や木材利用への期待度、市の施策の浸透度合い、ビジョン立案に期待することを把握するため、アンケート調査を実施しました。

3、関係者を対象としたヒアリング調査

森林・林業・木材産業に関わる方々、自然保護や教育に携わる方々など市内で活躍される方々を対象として、現在活動されている内容や、課題となっていること、新しく取り組まれていること、市がビジョンを策定するにあたり、期待することなど幅広く聞き取りを行いました。

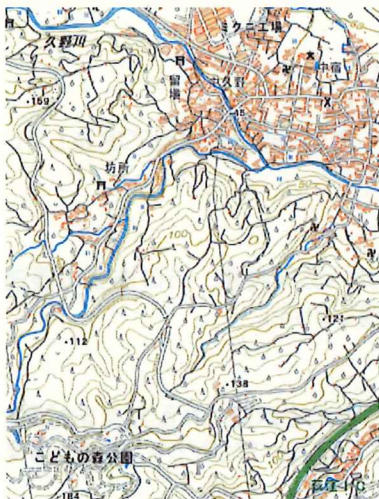
3つの調査を踏まえて、小田原市の現状を把握し、基本的な方向性を検討しました

航空レーザを基盤とした地形データと、各種生態系調査の結果を基に生育可能域調査を実施しました。

No.	分類	和名	重要な生育生息環境
1	植物	アケビ	林縁部など
2	昆虫類	ニイニイゼミ	広葉樹林など
3		ヒグラシ	広葉樹林、スギやヒノキなどの針葉樹林など
4	爬虫類	ニホンカナヘビ	広葉樹林、林縁部、藪、草地、農地など
5	鳥類	モズ	開けた森林、林縁部、農地など
6		ウグイス	笹林、藪、広葉樹林など
7	哺乳類	イタチ	広葉樹林など

生息地の推定には航空機からレーザ照射で取得した、詳細な地形データと植生図を合わせて利用しました。

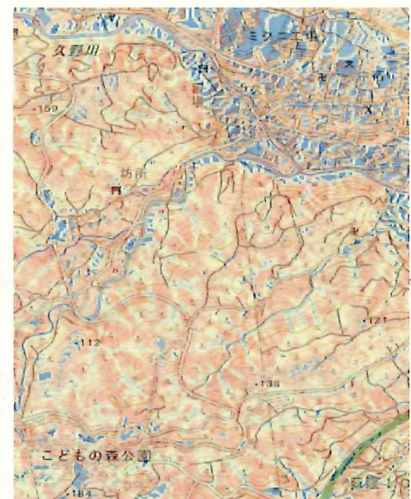
標高や傾斜、水の集まり具合、植生などの解析結果(現在の小田原市の森林の姿)と、その動植物が生息できる環境を掛け合わせると、**住みやすい環境が【見える化】**します。⇒**生物の多様性のために守るべきエリアを抽出**



基盤情報



詳細地形図

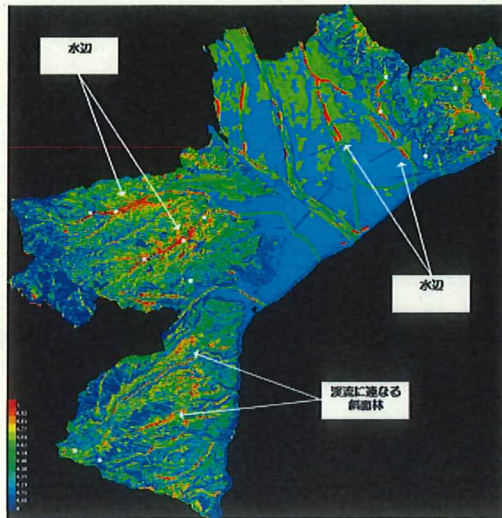


水文図

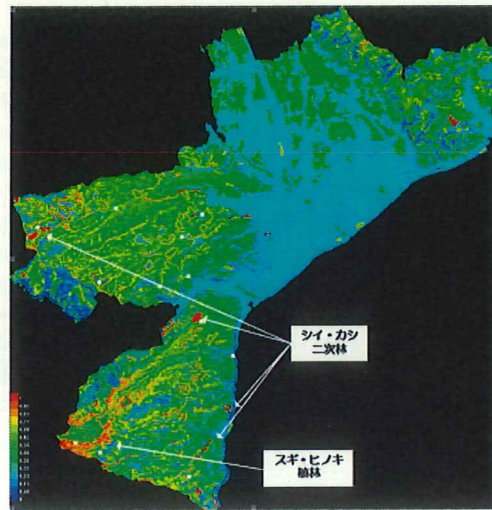
※ その他: 標高・斜面方位・植生・樹高などの情報を整理
(令和2年度には更に詳細な森林や地形情報が整備されます。)

各指標種の生息地を推定します。

イタチ



ニイニイゼミ



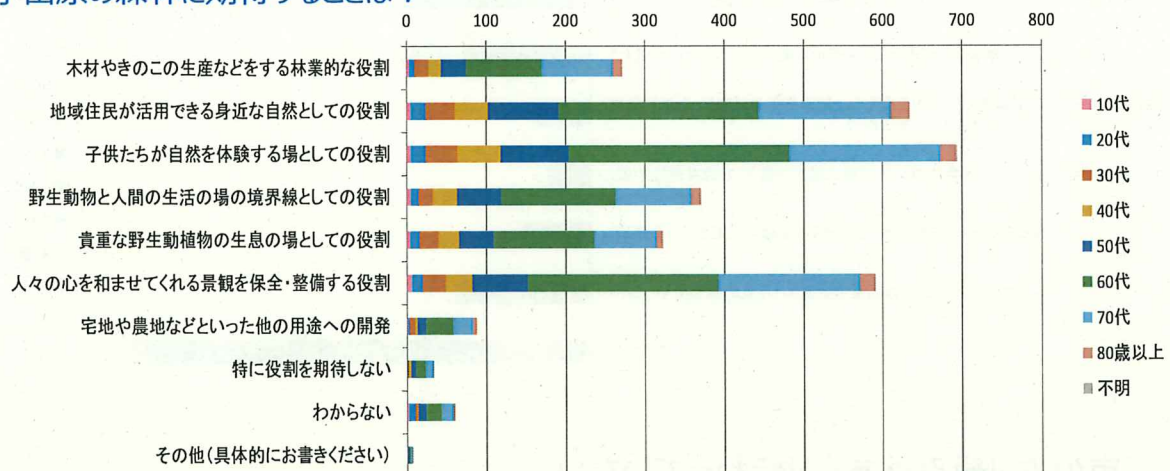
★POINT

- ※詳細な地形データと生物調査情報を基に小田原市内の動植物の生育環境を【見える化】
- ※特に生物多様性の高い溪畔林部分や里山林などを今後抽出します。

森林意識調査(市民へのアンケート調査)

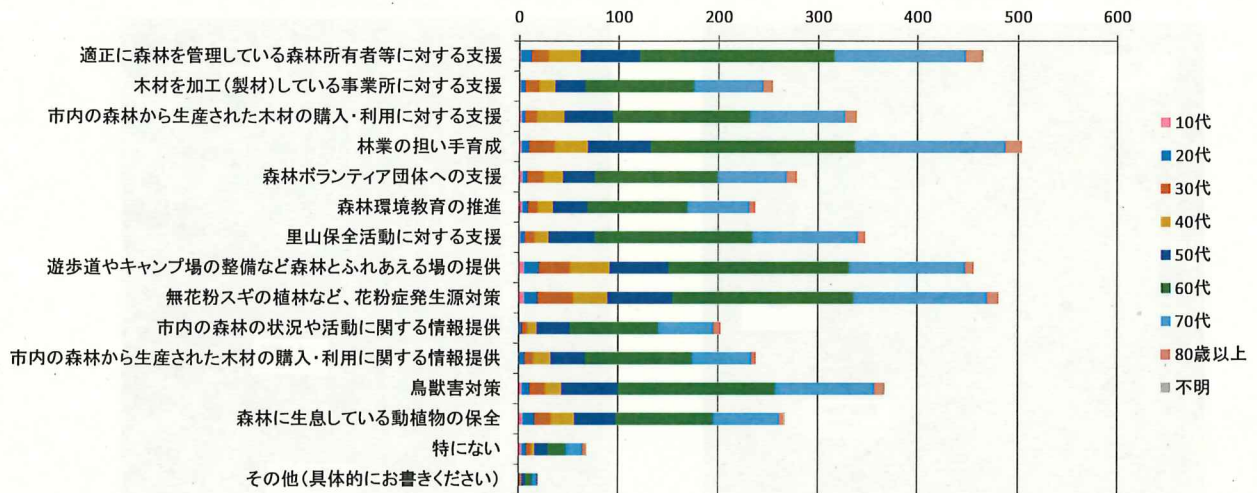
意識調査では市民を対象に森林に関するアンケートを実施しました。配布・回収は各自治会に依頼し、対象人数は1,255人(各自治会5名ずつ)で回答総数は1,142人(91%)と高いものでした。回答層は男性・50代以上の方が主体でした。

小田原の森林に期待することは？



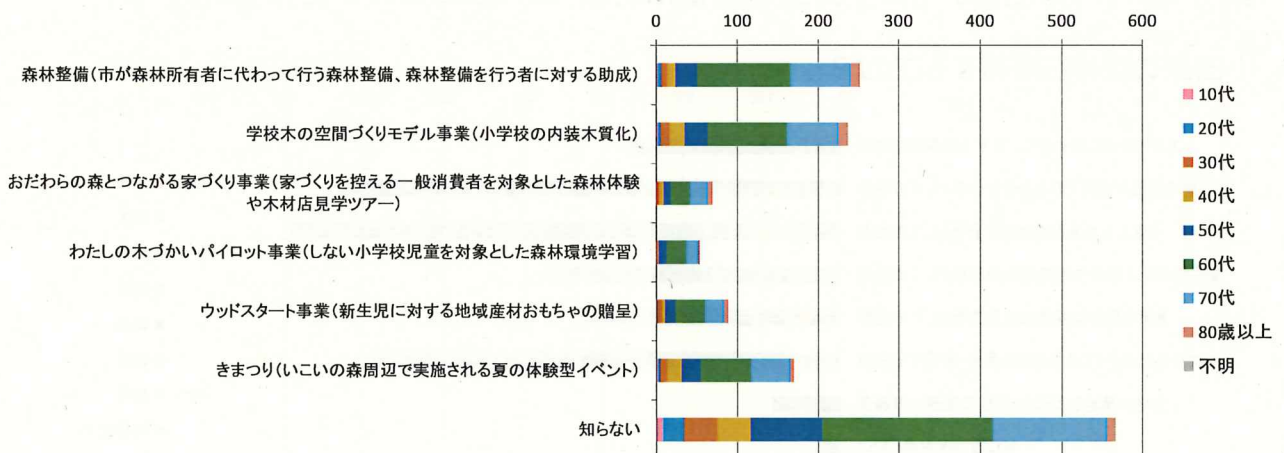
木材生産に一定の理解がありつつも、教育やレジャー、景観としての機能を期待する声が多い。⇒多様性のある森林を求める意向

今後の小田原の森林・林業・木材産業に期待することは？(複数可)



自由回答では 海岸沿いの森林整備や、ボランティア情報の提供(PRも含めた) 獣害対策など、特に森林整備に向けた要望が多い。

市の展開する施策でご存知のものはありますか？(複数可)



市の取り組みはあまり伝わっていない。
小田原の取り組みを継続して発信する必要(広報戦略の重要性)

ビジョン＝「上質な田舎」の実現

西粟倉村百年の森林構想



★POINT

田舎での雇用を創造する。
【ローカルベンチャー】事業

森林所有者と長期受委託を締結し、山林管理を実施（約2,500ha）。

これを基盤として、製品開発やバイオマスによる村内自給雇用の創出を実現

★POINT

- ※ 広報戦略を強化し、環境都市指定など対外的な投資を得ることを常に意識した事業実行
- ※ 投資を活かして、村内に様々な施設を設置したほか、専門部署による取り組みを実施。
- ※ 【森林しかないから森林を使うしかなかった】→関係者の覚悟と自覚。

うきは市 林業・木材産業振興ビジョン①

地域の林業・製材業を市民の方々に知って頂くバスツアーを開催したほか、3回のワークショップを実施し、うきは市の良さと、それを伝える商品のコンセプトを設定。



※市民が最もうきは市を誇りに思うこと

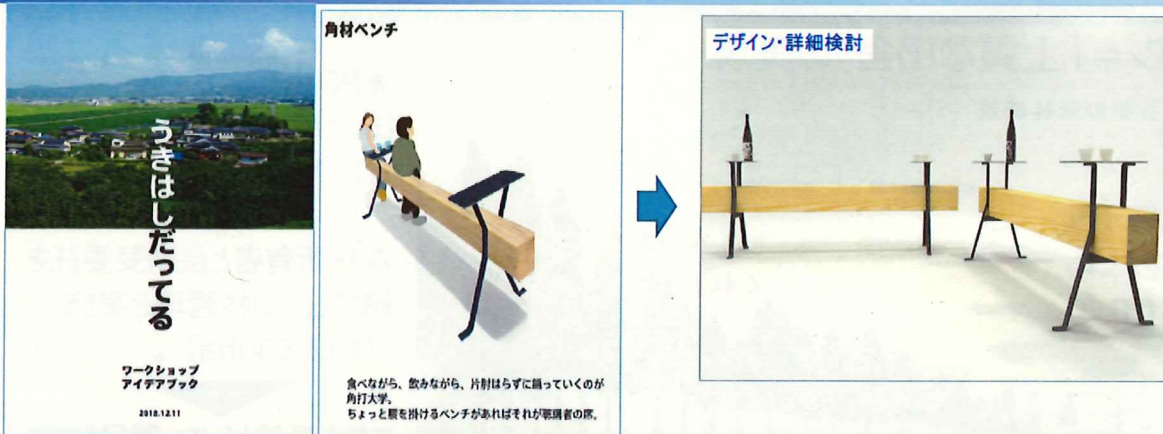
→歴史・祭り・縁側文化・教育体制＝「のぼせもん」が多い土地

※森林・林業・林産業として

→素材丸太生産から市場、製材所、家具・建具、木育カフェなど全て揃う

ビジョン＝

今、地域の最も自慢となっている、人の豊かさ、それを育む風景やこのコミュニティを維持し、活性化させるものを商品とする



市民が考えたものが形になる

関係者を対象としたヒアリング調査

市内で活動される、森林・林業・木材・市民・教育・観光など関係者を対象に、ヒアリングを実施しました(19名)。

⇒要望だけではなく、どのような経緯で市の森林や木材にかかわるようになったのか、また、そこで得た経験や思考についても幅広く伺い、より皆様の考えを知ることにも努めました。



山林所有者

森林を木材の生産だけではなく、果樹や余暇への活用など、総合的に利用したい。
【伐らない林業】・【辞めればまた、森に戻していくスタンス】が必要
獣害対策なども前例主義にとらわれず、新しい発想が必要である。

製材所

昔は木工屋と製材所があまり繋がっていなかったが、繋がりができて、異業種に材を納めるようになつて変わってきた。みんなが協力するようになった。家づくりも、モノづくりも木を使うことを地道にやっていければと思う。行政には森林や木材のスペシャリストが育ってほしい。

市民団体・教育

○小田原の木をもっとカジュアルに利用したい。まずは脱プラスチックから。今の子供たちが大きくなる時代はもっと厳しい環境になる。そのことに絶望せず、身近な環境を知り何かやれることを探そうと思う。ビジョンは暮らしに紐づくものであってほしい。

○小田原の植生や生物が学術上も重要であるのに、その重要性があまり理解されていないと感じている。多様性はもっと重視されるべき。ビジョンは開発計画の歯止めになるものとして上位計画に位置付けてほしい。

おだわら市森林ビジョンの策定に向けて①

小田原市のアドバンテージ

○多様性のある森林が市民の中にも支持されており、また、海(漁業)との繋がりが深い。
今後詳細な森林の情報が整備され、特に保全すべき地域や、里山の状況が明らかになることにより、科学的根拠に基づくゾーニングが可能になります (森林環境・資源調査、および意識調査より)

○川上から川下まで、森林・木材の活用に向けた継続した様々な取り組みが行われ、ビジョンを遂行する上で最も必要な地域の方々が楽しみながら繋がりがあることが大きなアドバンテージとなっています。 (ヒアリング調査より)

○都市近郊の立地条件を活かして、木材生産に囚われない多様な活用方法を模索しているほか、都市住民との交流も行われており、小田原の森林が外に出る取り組みが積極的に展開されており、これらは更に盛り上げるべき取り組みです (ヒアリング調査より)。

○市有林材を活用した教育施設への木質化の展開は教育関係者の森林や木材利用への理解が深まる効果が生まれており、今後、更に発展させることにより、教育分野での拡大が期待され木材と教育を結び付けた先進地としての可能性を秘めています (意識調査・ヒアリング調査より)。

小田原市の現状とこれから

○市の森林資源の現状、木材流通などの規模や資源構成、地形状況、木材生産能力のポテンシャルを考慮すれば、現在の全国的な素材生産の主流である大規模化へ向けた展開は難しい（**地域の戦い方**をビジョンで定める）。

○地域材の活用を高めるためにも、一方で都市近郊林や木育として、新たな経済的価値を訴求することは必要であり、小田原市にはその土壌がある。一方で**守るべきものも明確していく**必要がある。

○ただし、川上と川下側では、**供給できる資源と、利用したい資源にはギャップが生じており、この差を埋めるためには、長期的な展望と取り組みが必要**で、特に川上側では資源を育てる時間的スパンが必要（**ビジョンが必要な理由**）。

多様性のある森林の成長は、その森林を管理する人々の生活を含めて存続させなければならない→**ビジョンの最も重要な視点**（**絵にかいた餅にはしない**）

目指す森林は【**小田原らしい多様性豊かな森林の実現**】

都市近郊という立地条件を活かした小田原市全域の取り組みは、まさに多様性をめざす取り組みであり、「小田原らしい多様性のある森林」を実現することは、地域が生き残るために必要な戦略であることをビジョンとして示す必要がある。

多様な森林に適応した生き方や技術を模索することは、決して答えは一つではなく、様々な挑戦を行いつつ、成功であれば更に進化を、失敗であればその経験を活かすPDCAサイクルの実施を行い、ビジョンの修正に生かしていくことが必要である。

小田原市では既に様々な取り組みが実施されており、これを踏まえて目標を4つに区分して展開を図る。議論だけではなくプロジェクト進行も含め、関係者にとって魅力ある環境を提供する。